

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと
地域のみなさんをつなぐ広報誌

SFCだより

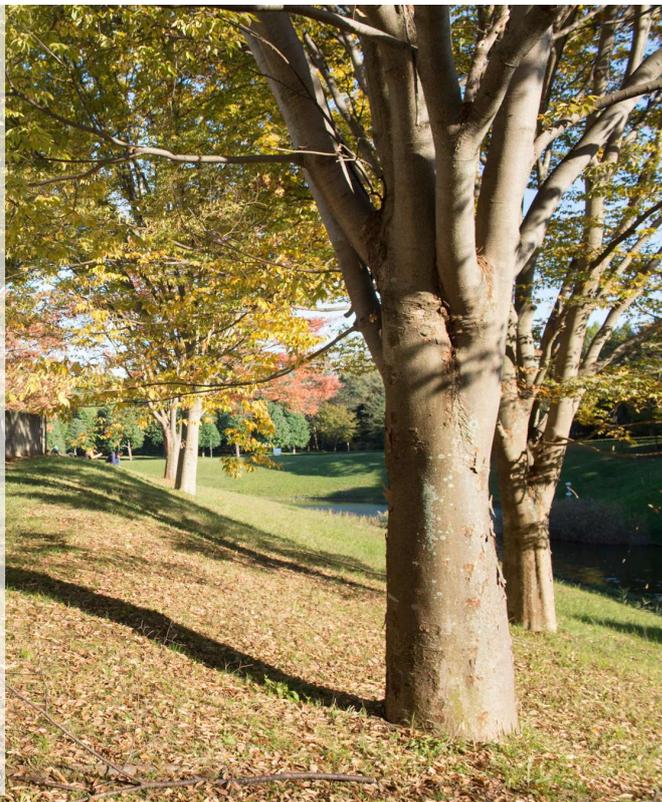
準備号

発行 : 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
編集 : 慶應義塾大学SFC研究所
発行日 : 2020年12月
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
TEL : 0466-49-3436
MAIL : dayori@sfc.keio.ac.jp

2020年、**新型コロナウイルス**の急速な感染拡大によって私たちの日常は大きく変わりました。SFCでは春学期**すべての授業をオンライン化**し、感染予防につとめました。

10月からはじまった秋学期は、一部で従来型の授業を再開しましたが、基本的にはオンライン授業が中心となり、キャンパスはまだ閑散としています。

地域のみなさまからは、SFCが開催する**七夕祭の花火**や**秋祭の出店**を毎年楽しみにしていたとの声をいただいています。再開する日までもう少しお待ちください。



湘南藤沢キャンパス

慶應義塾大学SFCから地域のみなさまへ



このような状況にあっても、私たちは大学と地域のつながりをできる限り深めていこうと考えています。とはいえ、なかなか直接お目にかかることができません。そこでしばらくの間、**これまでの慶應大学と地域との関わりを紙面にてご紹介してまいります。**

キャンパスに人が戻り、地域のみなさまに直接お会いできる日を心待ちにしています。

(撮影：石戸晋)

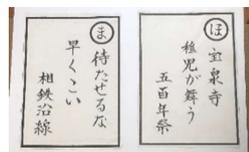
遠藤で暮らす人 × SFCで学ぶ人



遠藤地区の皆さん、
お世話になりました！

福重圭佑
(総合政策学部 2020年3月卒業)

僕が活動していた場所はキャンパスから一番近い、藤沢市の遠藤地区です。もともと長谷部葉子研究会に参加していた中で、個人的に遠藤地区に出て行った先輩が大学と地域のつながりがないことに気付いたことをきっかけに、長谷部研の中で「**大学と遠藤地域をつなぐと、どんなインパクトが大学と地域に生まれるか**」を考えるプロジェクトが発足しました。それがここ3年くらいのことです。遠藤地区の祭りの手伝いなど、すでに地域にあるものに参加させていただくことから始まり、2年が過ぎた頃からは学童クラブでの見守り役など、地域から学生をお願いごとを少しずついただけるようになりました。2018年10月に開設した「**もんのきの家**」は、藤沢市の「地域の縁側事業」で、市内に30か所以上も拠点ができただけでなく、僕らにも意見を求めてくださることや、**僕らが出したアイデアを認めてくださったり**することが、学生としてはすごくありがたかったです。



▲かるたの文面は大人が考えました。

◀もんのきの家では、送別会を開いて福重君の門出を見送りました。

イベント案の企画では、はじめ大学生を活用する案を考えたのですが、住民の方の出番がないことに気が付き、案を作り直しました。遠藤地区には本当に素晴らしい歴史と伝統の積み重ねがあるので、それをなしにして僕らが新しい風を吹かせるのも何か違うなと思ったんです。**遠藤にはずっと残ってほしいものがたくさんある**ので、それを活かして、今の遠藤の子供たちだったらこんな切り口でどうか、といったことを提案しました。この案が通って、2019年の夏は、遠藤に昔からある「**遠藤かるた**」の内容を、今遠藤で暮らす人の目線で作り直したり、竹林から切り出した竹を使って流しそうめんをしたりしました。でもそれは竹を切ってトイを作ったり、カルタの文章や絵を作るスキルが遠藤の皆さんにあったからこそ実現できたことです。こうした経験から、地域に残ってほしいものに対して、例えば今の小学生たちのあり方に合った形にするとか、未来志向でちょっと考え直してみたりするのが大学生の役割かと思っています。



▲2019年8月のカルタ作り。大人はカルタの紙を切り、子供たちは大学生と一緒に絵柄に色を塗りました。



▲できたてのかるたで早速遊びました。

遠藤での経験から**地域に近いところで仕事をしたい**と思い、出身地である鹿児島県の県庁で働くことにしました。自分は卒業してしまいましたが、SFCの学生にはこれからも遠藤に入って行って、その時々遠藤らしさを作ってほしいです。

福重くんが所属していた
長谷部葉子研究会
活動プロジェクト

「みんなの食堂」

<http://kitchen4everyone.org/index.html>

